

平成 28 年度 保険診療委員会活動報告

平成 29 年 6 月 18 日

日本小児血液・がん学会保険診療委員会

平成 29 年度の活動

- A. H30 年度診療報酬改訂に向けた提案書（内保連を介して要望済）
1. 免疫遺伝子再構成を利用した定量 PCR 法による微小残存腫瘍（MRD）の測定
（検査・未収載）
 2. 小児の特発性血小板減少性紫斑病（ITP）に対するヒト化抗 CD20 モノクローナル抗体（rituximab）
（医薬品・適応拡大）
- B. 「医療上必要性が高い未承認薬・適応外薬検討会議」への要望（2017 年）
1. 神経芽腫に対するイソトレチノイン（isotretinoin, 13-cis-retinoic acid）
（未承認薬）（提出済）
 2. 中等度以上の再生不良性貧血に対する抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン（equine thymocyte immune globulin injection）
（未承認薬）（準備中）
- C. NUDT15 遺伝子多型検査試薬の早期承認および保険適用の厚生労働省要望
理由：NUDT15 は白血病治療の key drug である 6MP の代謝に関するもので、アジア人において NUDT15 遺伝子の特定多型がロイケリン毒性と密接に関連することが論文発表されている。（Nat Genet 2016）NUDT15 遺伝子は 6MP に加えてアザチオプリンの代謝にも関連するため、潰瘍性大腸炎治療においても重要である。適応がアザチオプリンだけにならないために、血液系学会から早期に要望する必要であり日本血液学会と共同で実施する。
- Moriyama T et al. Nat Genet. 2016;367-73. NUDT15 polymorphisms alter thiopurine metabolism and hematopoietic toxicity.